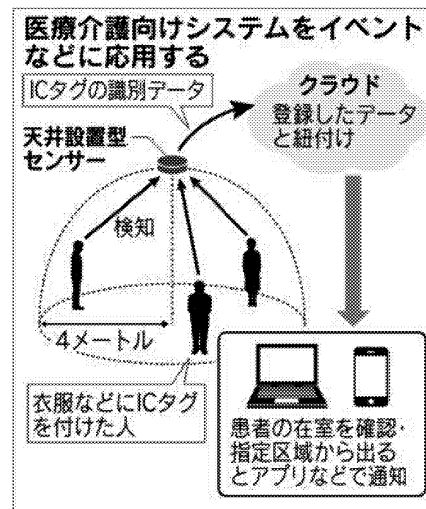


イベント向け ICタグ販売



大分のライフ 営業部署を新設

ICタグを使った検知システム開発のLIFE（ライフ、大分市、前田剛之社長）は、テーマパークやイベント会場向けにシステム販売を始める。ICタグは物流や工場などでモノの場所を把握するのに使われるのが一般的。イベント関連に活用するのは珍しく、混雑状況や迷子の把握などができるといふ。専門の営業部署を新設し、人員も3倍程度に増やす。

このほど、ドーガン・する部署を作る。このほ線自動識別）技術を活用ベータ（福岡市）と大分、経営管理を担う人員し、直下から最大で半径ベンチャーキャピタル3人も採用する。約4倍でICタグを検知

（大分市）に新株予約権 システムは充電不要の付社債を割り当て、計5 ICタグを使う。昨年10月、認知症患者や高齢者000万円を調達した。ライフは営業人員が医療の徘徊（はいかい）トラブル防止用として開発し、介護業界向けの4人にとどまるが、調達した資金は約27億9千万円。例えば、新たに7人採用し、テーマパークやイベントなどを運営する企業を開拓設置すれば、RFID（無

ICタグを使った検知システムを販売する



LIFE 2015年7月の設立。前田剛之社長は南九州コカ・コーラボトリング（現コカ・コーラウエスト）出身で、コンビニのフランチャイズチェーン（FC）を展開する会社も経営する。17年6月期の売上高は1億円を見込んでおり、新分野の開拓などによって18年6月期に売上高6億8000万円を目指す。

ICチップ市場 1292億円で拡大

世界の20年度、民間予測調査会社の富士キメラ総研（東京・中央）の予測によると、RFID（無線自動識別）で使うタグに埋め込むICチップの世界市場は、交通や決済、モバイル機器などを除けば2020年度に1292億円。15年度実績比で約5割拡大する見通し。充電不要のタグを使うシステムは工場や倉庫の

ICチップ市場 1292億円で拡大 世界の20年度、民間予測調査会社の富士キメラ総研（東京・中央）の予測によると、RFID（無線自動識別）で使うタグに埋め込むICチップの世界市場は、交通や決済、モバイル機器などを除けば2020年度に1292億円。15年度実績比で約5割拡大する見通し。充電不要のタグを使うシステムは工場や倉庫の

スマートフォン（スマホ）などで位置情報を確認できる。

徘徊トラブル防止用で、センサー1台あたり税別約100万円、ICタグ1枚あたり同200円になる。加えて保守管理費用として月額数万円かかる。

テーマパークやイベント会場では来場者にタグを配布するとともに性別や年代を登録してもらい、迷子などに備えたい場合は、グループで登録

してもらったことを視野に入れて。センサーに取り付けるアンテナを工夫し、広い範囲をカバーできるシステムに改良する。

ライフの徘徊トラブル防止用システムについては、医療機器商社などを通じて、これまでテストも含めて約30カ所の病院などが導入している。